

4 旭市

(旭市・海上郡海上町・同郡飯岡町・香取郡干潟町の合併)

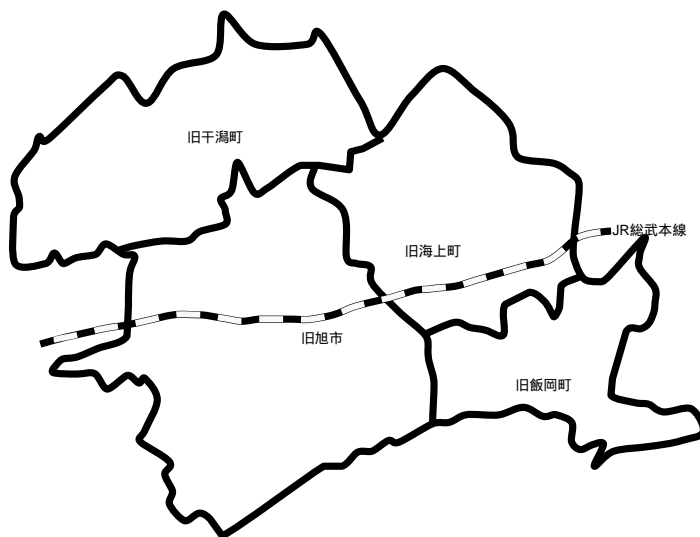


市章

新旭市の将来都市像「ひとが輝き海とみどりがつくる健康都市“旭”」をイメージし、旭(asahi)の頭文字「a」をモチーフに、青色は海を、緑色は豊かな自然を、そして全体のシルエットは、それらの自然と大地の恵みの中で、健康で元気はつらつと躍動する旭市民と、未来へと飛躍する活力ある旭市の姿を表しています。【平成 17 年 10 月 29 日制定】

(旭市ホームページより)

巻末差込の別紙にカラー版あり。



(1) 概況

合併方式 新設方式(旭市、海上郡海上町、同郡飯岡町、香取郡干潟町を廃止し、その区域をもって、旭市を設置する)

合併期日 平成 17 年 7 月 1 日

事務所の位置 旭市二の 1920 番地

人口 70,595 人(平成 17 年 7 月 1 日現在常住人口)

面積 129.91 k m²

初代市長 伊藤忠良

初代議長 林正一郎

議員定数 26 人

位置・地勢等

旭市は、千葉県の北東部に位置し、千葉市から 50km 圏、また都心から 80km 圏にあります。南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地が広がっています。市の中央部を東西に、JR 総武本線と国道 126 号が通り、周辺は市街地として発展しています。そして、平均気温は 15 と温暖な気候です。

産業では、施設園芸、畜産、稲作、露地野菜など盛んな農業をはじめ、水産業、商業、工業など、バランス良く成長しています。

平成 17 年 7 月 1 日、旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併して誕生した本市は面積 129.91 平方キロメートル、人口 7 万 1 千人の東総地域の中核都市として今後の発展が期待されています。(旭市ホームページより)

(2) 合併の背景等

(合併申請書添付書類「第 4 廃置分合を必要とした理由」より抜粋)

第 4 合併を必要とした理由

1 位置と地勢

(略)

2 人口と面積

(略)

3 関係市町の沿革

(略)

4 関係市町の現況

旭市・海上町・飯岡町・干潟町の 1 市 3 町は、地理的にも歴史的にも経済・文化・生活の面で深い結びつきを有してきた。現在の生活及び交流の状況をみると、1 市 3 町を東西に横断する国道 126 号・飯岡バイパスを中心に、県道、東総広域農道とで道路網は骨格をなし、日常生活圏としても一体化している。

また、広域行政への取り組みも早く、昭和 26 年 10 月に国保旭中央病院組合、昭和 42 年 6 月に東総塵芥処理組合、昭和 45 年 4 月に旭市外三町消防組合を 1 市 3 町で設置し、東総地区広域市町村圏事務組合や東総衛生組合にも設置時に揃って加入するなど、既に一体的なサービスを提供している。

5 合併までの経緯及び取り組み

(略)

6 廃置分合を必要とした理由

1 市 3 町は、美しい九十九里の海浜や緑豊かな田園景観、北総台地など、恵まれた自然環境を基盤として、活力ある地域社会を築きあげてきた。また、1 市 3 町の連携強化と機能分担による一体的な振興を図るため、一部事務組合を設置して病院や消防、ごみ処理など、住民生活の安全・安心に関する事務の共同処理を進めてきた。

しかし、近年の社会経済情勢の変化の下で、地方分権の進展や少子・高齢化への対応、財政状況の悪化など、共通の課題を抱えており、行財政の効率化、行政能力向上への早急な対応が求められている。

これらの課題に対応するため、1市3町が対等の立場に立って合併し、適正な規模と行財政能力を持った自治体を築くとともに、千葉県北東部の中核都市を形成しようとするものである。

(3) 合併の経緯等

平成 14 年

- 6月5日 1市3町の首長、議長合同会議
1市3町による合併構想を進めていくことに合意
- 6月30日 未来のまちづくりシンポジウム開催（東総文化会館）
- 8月19日 旭市、海上町、飯岡町、干潟町が県に合併重点支援地域の指定を要請
- 8月26日 県が旭市、海上町、飯岡町、干潟町を合併重点支援地域に指定
- 9月30日 首長、議長合同会議
旭市・海上町・飯岡町・干潟町任意合併検討協議会設置

平成 15 年

- 3月29日 第3回任意合併検討協議会
銚子市、東庄町の任意合併検討協議会への参入申入れについて協議を行い、1市3町の枠組みで合併構想を進めていくという方針で合意
- 4月17日 旭市・海上町・飯岡町・干潟町合併協議会の設置について、1市3町の首長合意
- 5月12日 旭市議会、干潟町議会において、旭市・海上町・飯岡町・干潟町合併協議会設置議案の議決
- 5月20日 海上町議会、飯岡町議会において、旭市・海上町・飯岡町・干潟町合併協議会設置議案の議決
- 6月1日 旭市・海上町・飯岡町・干潟町合併協議会設置
- 6月17日 旭市・海上町・飯岡町・干潟町任意合併検討協議会廃止
- 7月24日 第2回協議会
・合併の方式を承認
・合併の期日を承認

平成 16 年

- 1月1日 新市の名称を公募
- ~2月10日
- 4月30日 第11回協議会
・新市の事務所の位置を承認

8月下旬 ～9月20日	新市建設計画策定のための合併に関するアンケート調査の実施
9月13日 ～10月9日	合併に関する住民説明会開催（1市3町の17ヶ所）
9月17日	飯岡町議会において、飯岡町が旭市・海上町及び干潟町と合併することの可否に関する住民投票条例の制定について可決
9月29日	第15回合併協議会 ・新市の名称を承認
11月7日	飯岡町において、住民投票実施、合併賛成多数
11月26日	第17回合併協議会 ・新市建設計画を承認
11月29日	第18回合併協議会 ・合併の期日（修正提案）を承認
12月12日	合併協定書調印（飯岡町いいおかユートピアセンター）
12月15日	旭市議会、海上町議会、飯岡町議会、干潟町議会において、合併議案の議決
12月21日	旭市長、海上町長、飯岡町長、干潟町長が県知事に合併申請書を提出
平成17年	
2月17日	県議会において、旭市、海上町、飯岡町、干潟町の合併議案の議決
2月18日	旭市、海上町、飯岡町、干潟町の合併を県知事が決定、県知事から総務大臣に届出
3月14日	総務大臣による合併の告示
7月1日	合併

（４）合併の特徴

庁舎の位置

旭市役所（海上町役場、飯岡町役場、干潟町役場は支所）

議会議員の取扱い

在任特例適用（期間：平成17年12月31日まで。定数70人）

期間終了後の定数及び選挙区：26人。選挙区は設けない。

農業委員会の取扱い

在任特例適用（期間：平成17年7月19日まで。定数71人）

期間終了後の定数及び選挙区：20人。選挙区は設けない。

地方税の取扱い

1市3町で差異のあるものは、原則として合併時に統一する。

地域自治組織

地域審議会を海上町、飯岡町、干潟町の区域に、平成23年3月31日まで設置。

合併後の住居表示

- ・旭市 現行どおり
- ・海上町、飯岡町、干潟町 字の区域と名称は現行どおり

(5) 合併関係市町村の概況

旭市

人口	41,034人(平成17年6月1日現在常住人口)
面積	50.61 km ²
沿革	昭和29年2月11日合体 旭町、矢指村、富浦村(旭町) 昭和29年6月1日編入 共和村、豊畑村 昭和29年7月1日市制施行
市長	伊藤忠良(合併時)
議長	鈴木正道(合併時)
議員定数	22人(合併時)
職員数	369人 うち一般行政職 227人(平成17年4月1日)
財政規模	普通会計歳出合計 13,361,032千円(平成16年度決算)

海上町

人口	11,083人(平成17年6月1日現在常住人口)
面積	28.59 km ²
沿革	昭和29年3月31日合体 鶴巻村、滝郷村、嚶鳴村
町長	穴澤清(合併時)
議長	向後保夫(合併時)
議員定数	16人(合併時)
職員数	96人 うち一般行政職 69人(平成17年4月1日)
財政規模	普通会計歳出合計 4,002,662千円(平成16年度決算)

飯岡町

人口	10,691人(平成17年6月1日現在常住人口)
面積	18.27 km ²

沿革 昭和 29 年 3 月 31 日合体 飯岡町、三川村
町長 向後貞夫（合併時）
議長 佐藤文雄（合併時）
議員定数 16 人（合併時）
職員数 120 人 うち一般行政職 72 人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模 普通会計歳出合計 3,531,306 千円（平成 16 年度決算）

干潟町

人口 7,782 人（平成 17 年 6 月 1 日現在常住人口）
面積 32.44 k m²
沿革 昭和 30 年 4 月 10 日合体 古城村、中和村、万歳村
町長 菅谷喜作（合併時）
議長 高橋利彦（合併時）
議員定数 16 人（合併時）
職員数 99 人 うち一般行政職 61 人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模 普通会計歳出合計 3,449,485 千円（平成 16 年度決算）



旧旭市役所（現旭市役所）



旧海上町役場（現海上支所）



旧飯岡町役場（現飯岡支所）



旧干潟町役場（現干潟支所）